

編集後記

今年の夏は記録的な猛暑となり、暦の上では、秋というものの、今もなお暑い日々が続いています。緑の葉が生い茂る木々も、あと2、3ヶ月もすると、赤く色づきます。しかし、昨今では、我々歯学部を取り巻く環境は、風情ある四季の移り変わりをのんびりと堪能することができない状況にあります。歯科医師過剰供給と言われて久しく、また、国家財政の窮迫問題と畳重し、新潟大学歯学部の存在意義を明確にし、将来をしっかりと見据え、今後の方針を決定していかなければなりません。いま、歯学部や附属病院では数多くの各種の委員会や作業部会が数多く開催され、多種多方面から現状分析と将来構想についての活発な討議が行われているところです。このことに関しては教職員はもとより、これから歯科医師を目指す学生さんやそのご父兄の方の関心も高いことと思います。今回お届けした歯学部ニュースもこうしたニーズに少しでも応えたいと思い、様々な情報を盛り込みました。これを機会にさらにわが新潟大学歯学部のあり方について活発な議論がおこなわれれば、と思っています。

数年前、どういう訳か、一部の編集委員から「歯学部ニュースの廃刊」が提案されました。新潟大学歯学部で育ってきた我々には全くナンセンスな話でありました。「社会に開かれた大学」を要求される現代、広報の重要性はますます高まっています。みなさまお気づきのことと思いますが、今号から歯学部ニュースのレイアウトを一新しました。またコンピュータ時代への対応として、今年度は歯学部ニュースをWeb上で、PDFファイルとして提供します。URLは<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/ShigakubuNews/90/>です。このため、原稿の依頼、収集、入稿はE-mailでお願いし、編集委員の編集会議もほとんど開催せず、ネットワーク上で編集した歯学部ニュースが今号です。

最後に、新潟大学歯学部の名物教授の一人であられた小林茂夫名誉教授の急逝にお悔やみ申し上げます。小林茂夫先生が新潟大学歯学部にとされた夢を実現するよう、我々は努力を続けていかなければなりません。

なお、本号の編集は瀬尾憲司（編集主任、歯科麻酔科）、大島勇人（口腔解剖第二）、齋藤 功（歯科矯正）、程 珺（口腔病理）、鍛冶昌孝（口腔外科第二）が担当しました。

歯学部ニュース

平成11年度第1号（通算90号）

発行者 新潟大学歯学部企画広報専門委員会
編集責任者 瀬尾憲司
編集委員 齋藤 功、大島勇人、程 珺、鍛冶昌孝
印刷所 (株)プライムステーション